

令和元年度

事業所名： グループホーム しらかば園

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390700110		
法人名	株式会社 久慈山形介護センター		
事業所名	グループホーム しらかば園		
所在地	〒028-8602 久慈市山形町川井10-55-1		
自己評価作成日	令和元年9月15日	評価結果市町村受理日	令和2年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かな環境 ・地域行事への積極的な参加により地域とのつながりを持つ ・畑作業で収穫した野菜でのおやつ作り等実施し自宅にいる時の様に過ごす ・外部からのボランティアを受け入れ楽しく過ごす時間を設ける ・停電に備え電源確保のため自家発電を2台設置している
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0390700110-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、久慈市山形町に最初に設立された、1ユニットのグループホームである。小規模多機能ホームが併設されており、デイサービスの利用者も含め地域の高齢者福祉の一翼を担っている。法人の理念「利用者がその人らしく生きてゆけるように」に基づき、職員一人一人が理念(目標)を定め、より良いケアの提供に努力している。事業所周辺の商店や理・美容室を利用し、事業所の夏祭りや大相撲の関取の慰問など、地域住民に声掛けし、利用者とともに地域との交流を深めている。開設当初から、食事を外注しているが、利用者と一緒に食事を楽しむことの大切さを理解しており、現状に工夫をしながら、あるべきグループホームのすがたに合わせ、管理者と職員ともに見直しを進めていることが窺われる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年10月11日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム しらかば園

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしく生きる」をテーマに職員一人一人が理念を掲げて日々向き合い共感できる支援を目指し実践につなげています。	法人の基本理念「その人らしく生きる」を、分かりやすい表現にしたいと、職員一人一人が考えた個々の理念(目標)を持ち、ケアを実践している。その理念を、顔写真とともに玄関ホールの見えやすい場所に掲示し、出勤時や迷ったときに確認し、より良いケアにつなげるよう努めている。	一人一人の職員が理念を考え実践し、介護サービスの質の向上に努力していることが窺われる。今後も、自らの理念を振り返り、より良い介護サービスの提供を継続されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理美容室の利用や近所の店への買い物など、外出の機会を増やしています。行事には近所の方々もお呼びしい所に楽しんでもらっています。夏祭りも行いたくさんの近所さんの参加をいただきました。	近くの理美容室を車椅子の利用者も含めて利用し、散歩コースになっている近くの保育園を通った際には、楽しそうに声を掛け合っている。事業所の夏祭りや[柘の心]等相撲部屋の慰問時には、近所の方々も参加され、協力いただいている。開設間もないが、地域に受け入れられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだまだではありませんが、施設の行事等の時には必ずお話しさせていただき、少しずつではありますが理解してくれる地域の方は増えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の会議では様々な意見をいただきます。また、市職員からは行政面での繋がりや他事業所の良い情報等頂き参考になります。	民生委員、老人クラブ、近所の商店主、地域包括支援センター、社会福祉協議会の方々と構成し、行政、福祉、地元の各種情報や意見を頂き、運営に活かしている。今後は、警察署、消防署等から治安や防災のお話をお願いしたいと考えている。元消防署員の委員には、避難訓練に協力いただく約束をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターには毎月会議に出席し、情報交換を行っています。	保険者である久慈広域連合の介護福祉課には、直接出向いて情報交換している。運営推進会議では、地域包括支援センターの委員から行政上の意見も頂いている。市福祉事務所との連携も図られている。今年の敬老会に市の山形支所長が出席している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は現在行ってません。研修への参加と報告は実施し、情報は伝達しています。	身体拘束適正化検討委員会は、管理者を中心に職員6人で定期的に開催し、運営推進会議に報告している。研修では、スピーチロック等何気なく出る不適切な言葉遣いについて話し合っている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員会議で勉強会を行っている。常に職員との会話を心掛け心のケアも行えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に現在は対象者なし。制度については研修などで理解している。今後も継続し職員の勉強会を行う、また、必要と感じた際は情報提供していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧にゆっくりと説明し、納得して同意いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まだまだ未熟な施設なので、日々の利用者、家族の意見は何気ない会話から引き出し活動へ反映されるよう努力している。	家族からは、面会時に直接要望等を聴くように努めており、内容は食事の好みや入浴・排泄等、生活面のものが多い。利用者は、職員に言いづらいことを、家族を通して伝えてくることもあり、その場合には速やかに対応している。外出の要望には、業務の合間を見ながら散歩等、出来るだけ外出の機会を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等での意見交換を行い良いことは取り入れ、運営に反映させている。	朝夕のミーティングでは、利用者に関することや業務全般の連絡を行ない、月1回の職員会議で要望等の把握に努めている。職員の提案で、通院の付添いは看護師が行なうように改め、利用者に安心感を与えるようになった。職員の要望もあり、介護技術の向上のため、内部研修や外部の研修へ職員を派遣している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力アイデア、また、勤務状況から給与水準はもう少し上げたい。利益向上し職員に還元していきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要なことについてはできる限りの参加をしてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	常に事業所としては連絡を取り合い情報交換により勉強会(研修会等)にも参加し取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の利用時十分な説明を行い不安なこと、不明なことがないか手稲に聞き取り利用者が安心して過ごしていただけるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どのように過ごしてほしいか充分聞き取りしている。家族と職員とで思いが共有できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者担当ケアマネ、家族の意向にアセスメントから今必要とする支援を提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	GHという家族の一員ととらえせいかもうリハビリを中心に日々よくう員と利用者が信頼し、寄り添う家族になるよう支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでも電話での報告を密にし、家族と共有した思いを持つように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域との交流は1年過ぎわずかではあるが馴染みの場所人が出来つつあるので、継続し交流を深めていきたい。	家族や親戚、兄弟、近所の方の面会が多くあり、職員は、帰りがけに話を聴いたり、お茶を出したりしながら再訪を促している。地元の店に出かけたり、移動販売車で買い物を楽しんでいる。理容・美容も近くの店に職員が送迎している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仕事の取り合い等が発生するので当番制を設けお互い孤立せずに過ごしている。長寿の方をいたわる様子も見られ継続するよう声かけ、見守りをしていく。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後現在利用中の施設職員と連絡を取り様子をうかがっている。相談があれば受け入れるなど心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員に話せないことは家族に話していることが多いので家族からの情様々な視点での聞き取りをしサービスへ反映させている。	話を聴き表情、動作を観察して意思を確認し、ミーティングや申し送りノートで職員間で共有している。家族から聴いた、これまでの生活歴や現在の利用者の思いを日々の介護に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回の家族、本人からの聞き取りや、普段の会話からなどから見えてくる背景からサービス、支援へ反映させるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを密にし利用者の状況を常に把握するようにしている。記録も不十分な時があるため勉強会をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常にモニタリングを行い、本人家族への希望を伺いながらケアプランを立てている。受信時は職員の気付きや様子等記録し持参している。	介護計画は、利用者や家族の思いや意見を反映させるようにしている。管理者、介護支援専門員、職員で設定期間毎に見直しを行なっている。状態の変化があれば、随時見直している。介護支援専門員が作成した原案を利用者と家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はまだまだ不十分で今後も研修など実施したい。ケース記録の他ノート等利用し、情報共有しながら介護計画へ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々のニーズがあり、本人に会うサービス提供できるよう努力している。多様化に向けて概ね職員間で共有できることは支援していきたいと考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館(2回/月)移動販売でのおやつ材料購入等楽しんでもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常受診以外は家族へ連絡してから受診し結果報告を行う、また、別の医療機関を受診した際は主治医に必ず報告している。	ほとんどの利用者が、協力医療機関である国保山形診療所を入居前からのかかりつけ医としている。緊急時は協力医に相談し、他の医療機関の受診を含め、必要な医療を受けることが出来る。地域外の医療機関受診は、家族の同行を原則としているが、不都合な場合は看護師と職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々に献花であったり気付きは必ず看護師へ報告し指示を仰ぎ、医療機関へも伝達をして受診、治療結果についても申し送りしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかに情報提供を行うようにしている。入院中も訪問し状況把握に努め、退院時も医療機関からの情報を共有し適切なケアを行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化しても施設が見つからず家族が困るケースが多い。家族への説明意向を伺いながらできる範囲で対応し他医療機関等へ引き継ぐなど支援していく。	入居時に、重度化した場合、訪問診療医の確保が難しく、看取りは実施していないことを説明し、特別養護老人ホーム等への入所申請を予め勧めている。看取りは行なっていないが、重度化した場合の対応について、職員研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの研修、応急手当の研修を行い、救急通報時の対応や職員体制等確認実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。地元消防団と連携協定を結んでおり、今後も地区協力団体との体制確立に努める。	年2回、避難訓練を実施している。災害時の緊急避難場所までの通路確認、夜間想定訓練で把握した問題点について、元消防署員である運営推進会議委員の助言を頂きながら、今後につなげる取り組みを検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄等プライバシーが損なわれる可能性がある。一人一人の職員に今一度指導しながら安心して過ごせるようにする。	何気ない言葉で利用者の誇りを損なわないよう、注意している。特に、排泄・入浴介助時に異性介助に違和感ある方には、シフトを替えて対応している。入室時には、声掛けやノックをし、常に笑顔で心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話で生まれた希望等を大切に自己決定の元支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴においては「今日は入らない！」等拒否的だったり、通院の都合で入れなかった際は翌日にしたりと本人の希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1年に一度の化粧の日を設けました、敬老会です。一番お気に入りの服を職員と選び楽しみにしている。もちろん日々の身だしなみにも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外注なので準備とお片づけを一緒にしています。食器拭きなどの片づけは人気で喧嘩にならないよう当番表を作り順番に行ってもらっています。	食事の外注について、職員から利用者と一緒に調理等したいとの意見があり、以前から行事食やおやつは手作りを心掛けていたところ、週1回は昼食をホームで調理して提供するように見直した。利用者と職員と一緒に献立を考えて調理し、楽しい時間となっている。副菜が不足と思われるときは、職員が工夫して提供している。	食事に関する一連の作業は、利用者の力を発揮する場であり、生きる張り合いや自信、楽しみ、喜びとなり、心身の力の維持や向上につながることから、外注の是非を含め、今後も食を楽しむ支援を重ねられることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては不足しないよう麦茶、コーヒー、冷茶、水等変化をつけて取ってもらっている。食事は医師の指示のある方は指示に添って提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食べたら磨くという習慣が身についている。入れば洗浄も毎日行うよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄個々のリズムに合わせて声がけをし、トイレでの排泄ができるよう声がけしている。	個々の排泄パターンに合わせて、トイレに誘導している。夜間も、声掛け、介助で対応している。今後も、現在の自立支援を継続出来るよう、介護の充実を図って行くこととしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、軽運動等予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	2回/週の入浴と入浴日以外は毎日足浴をしている。気分によっては入浴がよくじつになるときもあるが、入浴剤を入れたり、音楽をかけたり気分よく入浴してもらうよう工夫している。	週2回入浴している。円形の大きな浴槽で、開放感があり、ゆっくりと音楽を聞き、職員と会話している。入浴しながら、生活歴や過去の出来事、思いや意向を話してくれることが多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使っていた毛布タオル等なじみのものを持参していただき、自宅にいるときの感覚で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が管理し、飲み忘れ、飲みこぼしが内容確認している。薬情報はファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛けや消毒、茶碗拭き、洗濯畳等できる限り手伝っていただいている。また、散歩や草むしり、花の水やり、本読み等希望や個々に合わせ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望により買い物や、散髪に出かけている。	事業所の周辺を散歩している。園庭の畑の手入れ、近くのお店での買い物やおしゃべり、理美容室に出かけ、時々来る移動販売車を楽しみにしている。散歩に行けないときは、駐車場に出ることで外出気分を味わっている。職員は、出来るだけ外出が出来るよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則現金は持たせないことになっている。本気防磁や能力に応じて使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	形態を所持している利用者もいて、自由に使用している。手紙については今のところ希望者は無し。あれば希望に添って支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を大事にしその季節の作品を制作し飾っている。	ホール兼食堂は、採光が良く、日中の大半を過ごす寛ぎの場となっている。クーラー、温風ヒーター、食卓、椅子、ソファ、テレビ、歌手応援グッズ、文庫本が置かれ、壁には、行事等での利用者の明るい表情の写真を飾っている。健康体操、カラオケに興じる利用者の声が聞こえる。ホールの掃除は、毎日利用者と職員と一緒にモップがけしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を時々変えてみたりし、その時の気分に合わせて席も帰れるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真を飾ったり、小物を置いたりし自分の部屋として居心地の良い空間作りを行っている。	居室には、ベッド、木製のハンガーラックが備え付けてある。衣装ケース、椅子、テレビ、家族写真等を持ち込み、居心地良く配置されている。掃除は職員と一緒にこなっており、整理整頓され清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴から様々なことを引き出し、できる事、やれることを見つけ自立した生活へ向けて声がけ支援をしている。		